

2020 年度（対象年度：2019） 自己点検・評価シート

基準 1 理念・目的

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価	
		現状	改善
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ①建学の精神の設定とその内容 ・目指すべき方向性 ・育成する人間像	A	A
102	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。 ①建学の精神の普及と醸成 ・学生及び教職員への周知・理解 ・教育・研究・社会貢献における具現化 ・人権尊重の理解促進	B	

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
101 建学の精神を、HP、学生手帳、出講手帳に掲載し、建学の精神冊子を全新生に配布した。 また、建学の精神にもとづいて学部・研究科の教育理念・目的を定めている。(101a～e) 101 将来計画「グランドデザイン」での建学の精神の用語について、宗教委員会の提言にもとづき策定した。(101f) 102 建学の精神の醸成のため、降誕会、報恩講、公開講演会、月例法要、新入生本願寺参拝、成人のつどい、東日本大震災追悼法要、公開講演会等を実施した。(102a) 102 仏教活動奨学生（懸賞企画／フォトエッセイ）を募集し学生の企画や自主的活動を支援した。(102a) 102 人権啓発・社会貢献の一環として、AIDS 文化フォーラム in 京都に後援し、本学を会場として開催。プレイイベント開催、ブース出展等をおこなった(来場者 1,100 人)。(102b) 102 全学人権講演会、学部別人権研修会を開催、人権問題研究プロジェクトを実施した。(102c～d) 102 セクシュアリティやジェンダーの相談窓口（GS 相談）を実施した。相談件数は 1 件、予約 2 件、問い合わせ数件であったが、件数が少なくてもニーズの把握や大学の環境を知ることにもつながり、一定の成果があった。SOGI カフェは瀬田(初)と深草で計 3 回開催。ゴールドを受賞した 2018 年度に引き続き PRIDE 指標に応募しシルバーの評価を受け、本学の状況や課題を明らかにすることができた。『大学生のための LGBTQ サバイバルブック Vol.3』を発行し、学生・教職員や、東京レインボープライド等に出展して配布した。これらの取り組みは、『大学時報』等に掲載された。(102e～j)	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	102 学生の主体的活動を支援する仏教活動奨学生（懸賞企画／フォトエッセイ）の募集
項目 No.	102 性の多様性に関する取り組み
課題事項《箇条書き》 *伸ばすべき点、改善すべき点	
項目 No.	102 仏教活動奨学生(懸賞企画)に採択された企画が実施できず、波及効果がないことが多いこと。
項目 No.	102 性の多様性に関する制度整備が進まず、相談件数が少なく、環境改善も進捗が少ないこと。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
102	仏教活動奨学生のうち、懸賞論文として募集していたものを、より多様な学生への応募を企図して2018年度からフォトエッセイに変更して募集した。応募数は減少せず、一定の成果があった。(102k)
102	AIDS文化フォーラム in 京都は会場提供にとどまらず、犯罪学研究センターと連携したプレイベントや分科会の開催、ブースの出展、学生の参画等、主体的に関わり、社会的貢献を果たした。(102b) また、関西レインボーフェスタ(2年連続)に加え、東京レインボープライドに初出展した。(102h)
102	あらたにジェンダー・セクシュアリティ相談を実施(2020年度の実施)した。相談件数は少ないものの学生のサポートをすることができた。自認する性にもとづく通称名の使用を認める等、相談しやすい環境整備が必要である。(102e)
102	『大学生のためのLGBTQ サバイバルブック みんなのキモチ』を発刊し、イベントや研修会で配布した。(102i) また、全学人権講演会「LGBTQ だけじゃない！体の性の悩みを知る。ーDSDs：性分化疾患についてー」の講演を受けて、本学ホームページに性分化疾患について追記更新した。(102l)

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
102	宗教部主催の行事については可能な限りインターネットで配信する。また SNS を活用して行事告知や募集をおこなう。
102	アクションプランにもとづき、宗教委員会／人権問題研究委員会等の意見を踏まえつつ、事業推進計画を策定する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	Abc	龍谷大学の建学の精神（HP、学生手帳、出講手帳）
101	d	建学の精神冊子「はじめの一步」日英中
101	e	教育理念・目的
101	f	建学の精神に関する用語の取扱いについて
102	a	事業報告(資料)
102	b	AIDS文化フォーラム in 京都報告書
102	c	全学人権講演会、学部別人権研修会一覧
102	d	人権問題研究プロジェクト関係資料
102	e	ジェンダー・セクシュアリティ相談窓口関係資料
102	f	SOGI カフェ開催ポスター
102	g	PRIDE 指標シルバー受賞 HP
102	h	東京レインボープライド／関西レインボーフェスタ出展 HP
102	i	大学生のためのLGBTQ サバイバルブック Vol.3『みんなのキモチ』
102	j	『大学時報』『滋賀プラスワン』『本願寺新報』掲載記事
102	k	仏教活動奨学生応募者数
102	l	性分化疾患に関する説明（HP）

Ⅱ. 評価結果

総評
<p>建学の精神は「浄土真宗の精神」であること、また大学の教育理念・目的は、建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成することを明示している。さらに学部・研究科の教育理念・目的は、大学の教育理念・目的のもと定められている。育成する人間像を明示した大学の理念・目的のもと、学部・研究科の目的を適切に設定しているものと評価できる。</p> <p>建学の精神、教育理念・目的は、HP、学生手帳、出講手帳、建学の精神冊子等に掲載し、同冊子を学生に配付することで周知に努めている。また建学の精神、教育理念・目的を HP に掲載することで、社会にも公表している。</p> <p>降誕会、報恩講、公開講演会、月例法要、新入生本願寺参拝、成人のつどい、東日本大震災追悼法要、公開講演会等を実施し、建学の精神の普及・醸成に努めている。また仏教活動奨学生（懸賞企画／フォトエッセイ）を募集したものの、採択された企画を一部実施することができなかった。応募件数も多いとはいえない。建学の精神の普及・醸成に関する取り組みについては、その効果を評価し、伸長・改善につなげることが望まれる。</p> <p>AIDS 文化フォーラム in 京都の本学開催、全学人権講演会、学部別人権研修会の開催、人権問題研究プロジェクト、セクシュアリティやジェンダーの相談窓口（GS 相談）の実施、SOGI カフェ(瀬田)の開催など、関西レインボーフェスタ及び東京レインボープライドへの出展等は、積極的に人権尊重の理解促進に取り組んでいるものと評価できる。特に学内におけるジェンダー・セクシュアリティ相談や SOGI カフェ(瀬田)の開催は、学生の多様性に配慮した学生支援につながる活動と評価できる。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>ジェンダー・セクシュアリティ相談等の学内における性の多様性に関する取り組みは、学生の多様性に配慮した学生支援につながる活動と評価できる。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<p>「建学の精神及び教育理念・目的」と「人権啓発」とを評価項目を明確に区別し、その取り組みを評価することが望まれる。大学評価支援室と協議いただきたい【留意点】。</p> <p>建学の精神の普及・醸成に関する取り組みについては、その効果を評価し、伸長・改善につなげることが望まれる。特に仏教活動奨学生（懸賞企画／フォトエッセイ）は、計画どおり実施すること必要である。また応募件数を増やすことも課題である【留意点】。</p>

2020 年度（対象年度：2019） 自己点検・評価シート

基準 1 理念・目的

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価	
		現状	改善
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ①建学の精神と大学の教育理念・目的の連関性 ②大学の教育理念・目的と学部・研究科の教育理念・目的の連関性 ③学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容	B	B
102	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。 ①学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 ②教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の教育理念・目的、学部・研究科の教育理念・目的等の周知及び公表	A	

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
<p>101① 建学の精神と連関した「龍谷大学の教育理念・目的」[101a]を設定している。</p> <p>101② 大学の教育理念・目的と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を担保するため、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」を設定[101b]している。</p> <p>101③ 学部・研究科ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的を示した「教育理念・目的」を設定し、そのもとに3つの方針を定めている。</p> <p>2015年度に「龍谷大学の教育理念・目的」及び「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」が策定されたことから、学部・研究科の教育理念・目的と3つの方針の連関性や、3つの方針相互の整合性をあらためて見直すため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し（2016年度第2回全学教学会議〈2016.9.27〉承認）[101c]、種々検討を重ね、2019年度入学生より新たなDPとCPを適用することとなった。（2018年度第6回全学教学政策会議〈2019.1.24〉報告）[101d]。</p> <p>また、本学における教学マネジメント体制の一環として、全学教学政策会議のもとに新たに「3つの方針検証委員会」を設置するとともに、本学の教育活動における内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に実施するため、「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」を定めた。〈2019年度第1回全学教学政策会議（2019.4.25開催）承認〉[101e]。「3つの方針検証委員会」では、2019年度入学生より適用する「卒業認定・学位授与の方針（DP）」及び「教育課程編成・実施の方針（CP）」と整合が取れるよう、「入学者受入れの方針（AP）」の見直しを実施した。</p> <p>102①学部においては学部毎に、短期大学部及び研究科については、学科（専攻）毎に、学則において適切に明示されている。[102a]</p>

102② 本学の教育理念・目的、学部・研究科の教育理念・目的等については、各学部・研究科の履修要項や学生手帳、出講手帳、大学 HP において確認することが可能となっており、教職員、学生、社会に対して適切に公表されている [102b]。周知の方策については、教員に対しては、年度始めの教授会や研究科委員会で、学生に対しては履修登録説明会等でなされている。	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
102②	「教育理念・目的」については、履修要項・学生手帳・出講手帳・大学 HP など多様な方法で公表し、年度始めの教授会や研究科委員会等で確認している。
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
101③	学部・研究科の教育理念・目的と 3 つの方針の連関性、および整合性の検証。
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜伸長・改善の進捗状況＞

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
101③	「3 つの方針検証委員会」を設置するとともに、「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」を定めた。また、2019 年度入学生より適用する「卒業認定・学位授与の方針（DP）」及び「教育課程編成・実施の方針（CP）」と整合が取れるよう、「入学者受入れの方針（AP）」の見直しを実施した。
102①	学部・研究科の「教育理念・目的」については、毎年度初めの教授会等で変更の有無について確認がなされ、適切性が確認されている。[102c]
102②	学部・研究科の「教育理念・目的」等の変更については、媒体間で齟齬が生じないよう、教学部及び当該学部・研究科が連携し、学部については履修要項の共通原稿を作成するなどして確認を行っている。

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
101③	「3 つの方針検証委員会」において、全学的な共通の枠組みのもとに継続的に見直し作業を行う。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	a	龍谷大学の教育理念・目的（URL： http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html ）
101	b	学部・研究科の『教育理念・目的』と 3 つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針 （URL： http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html ）
101	c	3 つの方針一体的見直し作業部会の設置について（提案）＜2016 年度第 2 回全学教学会議 資料＞
101	d	各学部等における「卒業認定・学位授与の方針」（DP）及び「教育課程編成・実施の方針」（CP）の見直し結果について（報告）
101	e	「3 つの方針検証委員会」の設置について（提案）＜2019 年度第 1 回全学教学政策会議＞
101	e	「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」の策定について（提案）＜2019 年度第 1 回全学教学政策会議＞
102	a	学部・大学院・短期大学部学則（抜粋）
102	b	2019 年度各学部履修要項
102	c	2019 年度各研究科履修要項

102	d	2019 年度学生手帳
102	e	2019 年度出講手帳
102	f	大学の教育理念・目的、学部・研究科の「教育理念・目的」 http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html
102	g	各学部・大学院における「教育理念・目的」「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」の変更について（依頼）

II. 評価結果

総評
<p>大学の理念・目的及び学部・研究科の目的は適切に設定され、学則に明示し、Web や履修要項等の多様な方法で教職員及び学生に周知し、社会に公表しているものと評価できる。また、学部・研究科は、毎年度初めの教授会等で、「教育理念・目的」について変更の有無を含め確認をしている。</p> <p>2019 年度の取り組みとしては、次の点が伸長していると評価できる。教学マネジメント体制の一環として、全学教学政策会議のもとに「3つの方針検証委員会」を新設した。教育活動における内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に実施するため、その方針として「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」を定めた。3つの方針検証委員会では、「入学者受入れの方針（AP）【2021 年度入学生対象】」を策定し公表した（但し根拠資料の提出が必要-別途、web において確認済み）。</p> <p>今後は、3つの方針検証委員会が継続的に見直し作業を行うなど、「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」に基づき、教育活動における内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に実施することが期待される。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>教学マネジメント体制の一環として「3つの方針検証委員会」を新設した。</p> <p>教育活動における内部質保証の取り組みを恒常的・継続的に実施するため、その方針として「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」を定めた。</p> <p>「入学者受入れの方針（AP）【2021 年度入学生対象】」を策定し、CP・DP を含む3つの方針の見直しが完了した。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載